

## 教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 4 日

所 属： 獣医学部 獣医放射線学研究室

氏 名：茅沼秀樹 職位： 講師

役 職：

## I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
<p>獣医学部の臨床系教員として、小動物臨床における画像診断学の教育を主として行っている。</p> <p>近年、獣医療領域で使用され、診断を行う画像診断機器の種類は多く複雑である。また、描出される画像は非常に詳細であり、多くの知識と経験が必要とする。これら画像診断機器を理解し、読影のための最低限の知識を教える責任があると考えます。</p>				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医放射線医学	獣医学科	必修	2 年次	
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5 年次	
小動物総合臨床 I、II、III	獣医学科	必修	5 年次	
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5 年次	
総合獣医学	獣医学科	必修	6 年次	
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）				
<p>1.</p> <p>獣医学における画像診断学は、正常な動物の解剖学や生理学が基礎となり、各種疾患によって生じる病理学的変化を動物の体を傷つけることなく診断する学問である。そのため、正常な動物の構造や仕組みを取り扱う解剖学や生理学の知識があれば正常画像を理解することは容易である。また、正常像が理解できれば、各種疾患の異常像を知らなくても、正常ではない（異常である）ことに気付くことができ、画像診断上最低限の診断である異常所見の検出を漏れなくできるようになるものと考えている。以上から、解剖や生理学といった基礎系学問が、臨床系学問に直結し、画像診断が決して難しい学問ではないことを理解してもらいたいと思っている。</p>				
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）				
<p>画像診断は数値や波形で表される検査と異なるため、見た目の感覚に左右され客観性に欠き評価が非常に難解である。画像診断学におけるこの特徴は、診断画像をみる機会の少ない学生や経験の少ない臨床獣医師から倦厭される大きな要因であると思われる。このため主観的評価に対して少しでも客観性を持たせられるよう、正常臓器の大きさ等は近隣構造の大きさと比較して評価ができる基準値を教えるよう心掛けている。また、教える前に学生自身で先ずは考える時間を与え、学生自身の感覚を養う機会を与えている。</p>				

<p><u>アクティブラーニングについての取組</u></p> <p>獣医放射線学を学ぶ前に学習してきた解剖学的や生理学における各部位ごとの特徴と、画像上に現れる特徴をリンクしながら教える様に心掛け、画像に興味を持って取り組んでもらうことと、今までの学習してきた解剖学や生理学を自ら復習して、さらに深い理解が得られるよう講義を進めている。</p>
<p><u>ICT の教育への活用</u></p> <p>画像診断における各種画像は、DICM フォーマットと呼ばれるデジタルデータであるため、各種疾患症例のティーチングファイルを作成している。現在、症例数は増えつつあり何らかの形での公開は可能であるが、分野に偏りがあるため、なるべく早期にそろえていきたい。</p>
<p>4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）</p>
<p>① (B) 基礎学問の解剖学や生理学とリンクするよう、なるべく簡単などころから話することを心掛けているが、それをやり過ぎると時間が足りなくなってしまうため、自分が理想と考える講義内容にはなっていない。今後は画像診断学そのものから、解剖学や生理学も学び直せるような逆の発想を考えてみる。</p> <p>② (C) 講義後、近くの学生に話しかけ授業の理解度について軽く聞いてみる程度なので、今後は学理を使用したクイズの出題などを行って、確認していきたい。</p> <p>③ (C) 授業中に解剖学的特徴などを学生に問い、あえて答えを言わず調べるよう促す程度である。今後は、臨床上重要な解剖学または生理学的事項を箇条書きにし、事前に予習させたり、学理を使用したクイズの出題などを行ったりして、学生が興味を持って学習するよう促していきたい。</p> <p>④ (A) 授業後の質問はもちろんのことながら、メールでの質問に対しては、図や写真に書き込みをして返信するようにしている。</p> <p>⑤ (B) 一方的に講義が進むのではなく、問いかけ、その間に学生が考えながらゆっくりと進むようにしたいと思っているが、やり過ぎると講義時間が足りなくなるため十分ではない現状にある。</p> <p>⑥ 国家試験に出るような典型的画像は、授業の配布資料にも入れ、講義で説明するようにしている。今後もより多くの典型的症例画像をアップデートするよう努めたい。</p>
<p>5. 学生授業評価</p>
<p>① 配付資料の解説文を豊富にし、配布を行った。</p> <p>② 不明</p> <p>③ 講義時間のみでは十分でない分は、配付資料の充実で補い、アクティブラーニングを促していきたい。</p>
<p>6. 学生の学修成果</p>
<p>① 資料の充実や症例画像の公表などでアクティブラーニングを促していきたい。</p> <p>② 特になし</p>
<p>7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）</p> <p>今後も FD に参加する。またはオンディマンド学習にも取り組む。</p>
<p>8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）</p>

病院実習では、他の実習と比較して時間的制限が緩いので、学生との対話を重視し、動物や飼い主さん、現場での検査や治療を効率的に利用して教育に取り組んでいきたいと考える。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ